

めざせ！最強のカブトムシ・クワガタマスター【虫とりハンターの巻】 イベントレポート

おおさか環境ネットワークが主催で夏休みの自由研究がテーマのイベントが、なにわ ECO スクエアで8月9日(日)に開催され、弊社も2階交流スペースで午前、午後に出展しました。

「おおさか環境ネットワーク」とは、「持続可能な未来を子どもたちへ」という理念のもと、さまざまな環境活動を行う団体が集まり交流しています。環境事業協会はそのネットワークの連携団体です。

弊社の出展イベントは、「めざせ！最強のカブトムシ・クワガタマスター【虫とりハンターの巻】」と題し、職員の岡本が得意とする分野を活かして、小学生を中心とした子どもたちの夏休みの自由研究をサポートする企画です。

以下の特典を目玉に募集をかけたところ、午前中は7組15名、午後も7組14名の親子にご参加いただきました。ありがとうございました。



特典1	滅多に見られないようなサイズの外国産カブトムシ・クワガタムシの実物とのふれあいタイムがあります☆
特典2	来場者には特製カブクワ缶バッジをプレゼント☆ たくさんの種類がありますが受付での在庫は1個ずつなので早い者勝ち！
特典3	飼育ケースミニ1組につき1つプレゼント☆
特典4	ひみつ採集道具1組につき1つプレゼント☆
特典5	お話の途中にはクイズを何問か出すので、回答してさらにバッジを貰おう！！
特典6	5つのミッションをクリアした方には、本講座の認定証をお渡しします(お子様限定)。夏休みの自由研究や学習の成果としてご活用いただける内容です。

第1部(午前)受付開始です！開場前からたくさんの参加者の方にご来場いただいていた。ありがとうございました。そして、特典であり先着順に種類が選べる缶バッジの配布と共に、ひみつ採集道具や飼育ケース、今回の講座で非常に重要なミッションのしおりをプレゼントしました。



下の写真はイベントに参加した人が貰える参加賞です。
「参加者は先着順でカブクワの缶バッジが選べる！」との設定をし、実は講師が撮影した400種類以上1万枚以上のカブクワの写真の中から厳選した、「30種類の写真を使った缶バッジ」を用意しました。参加者は講演中にクイズがいくつか出題されるので、見事正解すればさらにバッジが貰えるうれしい企画です！



今回、会場内で何と言っても注目ののは右の写真にあります8種類の実物の生体展示でしょう。
先日採集したばかりの国産ノコギリクワガタ71mm、野外ギネスと同じ大きさの国産78mmのミヤマクワガタや、トルコ産ユダイクスミヤマクワガタ98mmなど、昆虫ショップやインターネットでもお見掛けできないような超BIGサイズばかりです。
開演前から触る子どもたち、写真を撮る子どもたちで大賑わいでした。





下の写真で中央のクヌギの台木は、以前自然環境を保全しておられるボランティアさんに作っていただいたもの。以前標本講座でも大活躍しましたが、今回も使用しました。



いよいよ開演です(写真左)! この講座のスタイルは、開演から暫くは実物の外国産や国産のカブトムシやクワガタの超特大個体を間近で見比べ、「もしこんなのが日本にいたら・・・」という環境問題について触れることから始まります!

「日本の生きものを脅かす原因になるので外国から来た生きものは最後まで責任をもって飼育しましょう」というアナウンスをしました。皆さん真剣に聞き入ってくれていました。

その後のスライドでのお話では、皆さんスクリーンに注目してくれていて感動でした。

小学生対象のイベントは、なかなか全員がお話を聞いてくれないことが多いのですが、さらには年中や年少のお子さんもいる中でも聞き入って貰えました。

最初の掴み(実物とのふれあい)が良かったことによる結果と、スライドの中にたまにクイズを入れ込んでいる結果だと考察しています。



しかし皆さんにひみつ採集道具の使い方を皆さんにお伝えするシーンでは、木のウロに見立てたクヌギの人口穴を使って中にパラワンオオヒラタを入れ込み、道具で掻き出す実演をするつもり・・・が！なんと用意したパラワンオオヒラタが大きすぎて想定外の事態が！！

➡ かなり幅広の穴でしたが体が厚くて入りませんでした。



急遽日本のノコギリクワガタを使って、子どもたちに穴の中に潜んでいる設定でクワガタを掻き出してみてもらいました。この道具を使うことで、木を傷つけることなく穴の中のクワガタをゲットできるということを参加者は学ぶことができました。



お話の途中にはクイズを何問か取り入れていますが、挙手して指名され、見事正解した人には缶バッヂをプレゼントすることにしていました。左のスライドは、そのクイズのうちの一つです。この時は、クイズの内容から「野外ではマムシやハチにも注意が必要」という啓発につなげるお話をしました。

次は屋外に出て、クワガタの捕れる木について学んだり、果実トラップについて説明を聞いたりしながら、岡本が普段から使用している全長 8m もの捕虫網を持つ体験をします！なにわ ECO スクエアの交流スペースから、建物裏にある自然体験観察園へ向かいました(写真左下)。まずは、クワガタの採れる代表的な樹種であるクヌギやコナラについて、葉の特徴や幹の表面の色の違いなどから見分け方を学んでももらいました(写真右下)。さらに、ハンノキやヤシャブシといった木の特徴も紹介し、こうした木にもクワガタがつくことを参加者の皆さんに知ってもらうことができました。



そして、次のアクティビティは、実は 2 日前に仕掛けていた果実トラップのチェックです。作り方については、先ほどのスライドを使用した講演の中で、右の図を使って皆さんにご紹介していました。ストッキングの中に果物を入れ、アルコール漬けにしたものを、直射日光の当たる場所に数日置いて発酵を促します。そして、完成したトラップを園内に仕掛けていました。

②果実トラップ採集



早速、順番に見て回りましたが、午前中のイベント参加者用に用意していた 2 か所のトラップでは、残念ながら思わしい結果が得られませんでした。



左の写真は、地面近くに仕掛けたトラップを確認している様子です。地面近くに仕掛けたトラップと、樹上数メートルに仕掛けたトラップを見比べてもらうことで、仕掛ける高さによって集まる昆虫の種類にも違いがあることをお伝えしたかったのですが、過去に昆虫が食べた痕跡は見られたものの、残念ながら確認時には昆虫そのものはついていませんでした。

ちなみに、樹上トラップは地上から約3mの高さに仕掛けていました。では、どのようにして仕掛けるのでしょうか。果実トラップに使用しているストッキングの端で輪を作り、それを網の柄の先端に固定した変形針金ハンガーに引っかけます。針金ハンガーは自由に形を変えられるため、ストッキングの輪をうまく広げた状態で引っ掛けられるように、適した形状に曲げて使用してください。あとは網の柄を伸ばすことで、高い場所にある木にもトラップを仕掛けることができるという仕組みです。8mの柄があれば、木の状況にもよりますが、最大で地上約9mの高さまで仕掛けることが可能です。



次は、下の写真のように8mもの長さのある捕虫網の使用体験をしてもらいました。この網は先端部分がわざと100円ショップの安価なものでできおり、枝葉に引っかかりにくくするように網の幅が20cmしかないのが特徴です。順番にひとりずつ持ってもらいましたが、伸ばした網は非常に重たく、小さなお子さんには扱いづらそうでした。小学校6年生でやっと支えられる雰囲気でした。



屋外でのアクティビティを終え、交流スペースに戻ってきました。

ここからは、再び講演の続きを行います。まずは、実際に採集したカブトムシの飼育方法について説明し、飼育する場合には、最後まで責任を持って大切に育ててほしいということをお話ししました。さらに、昆虫標本作製することの意義や、標本として残すことの大切さについても紹介しました。最後にはクイズを5問ほど出題し、カブトムシやクワガタを取り巻く環境問題について考えてもらう時間を設けました。単に昆虫の採り方や飼い方を学ぶだけではなく、身近な昆虫を入り口として、自然環境についても考えてもらうことが今回の講座の大きな目的の一つです。



5つのミッション全てを挑戦されたということで認定証を皆さんに順にお渡しして全員で記念撮影☆保護者の方々も、我が子の写真を撮ろうとカメラ側でスマホなどを構えられていました。きちんと学んでもらえていい思い出になったかな～？



そして、午後の部がはじまります！

休む間もなく、準備物など全てリセットして、次の参加者の方々を迎える準備をしました。

第2部(午後)受付開始です！事前申し込みの方のほか、当日申込の方もいらっしゃいました。そしてやはり開演前から実物の生体展示は大人気でした。右の写真は、受付後の会場内の様子です。前方の展示コーナーに人が集まっているのが確認できます。



左下の写真中央の女の子は、「虫は嫌いじゃないけれど、実は触ることができない。でも、行ってみたい！」ということで、実はご参加くださいました。

ところが、周りの男の子たちが順番にヘラクレスオオカブトの胸角に生えた毛を触っていく様子を見ているうちに、「自分も触ってみよう」という気持ちになったようです。

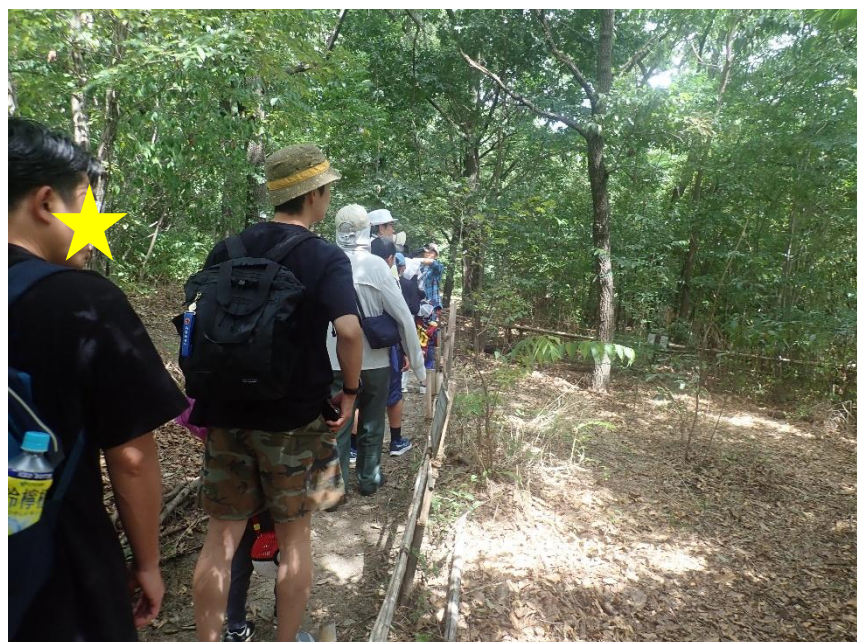
右下の写真は、実際にヘラクレスオオカブトに触っている様子です。その後は、ほかのクワガタにも触る体験をされていました。そして後日、叔父さまから「大きく成長した夏休みだった」との嬉しい感想をいただきました。



さて、いよいよ講演開始です。午前中と同様の流れで進めていきましたが、お子さんのためなのか、はたまたご自身のためなのか、熱心にメモを取っている姿を多く見かけました。

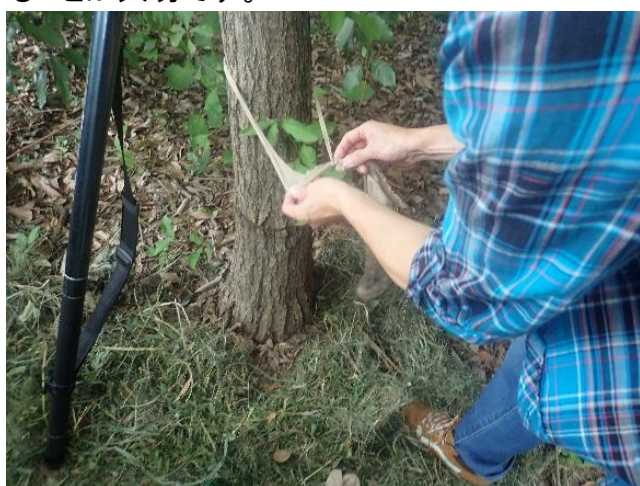
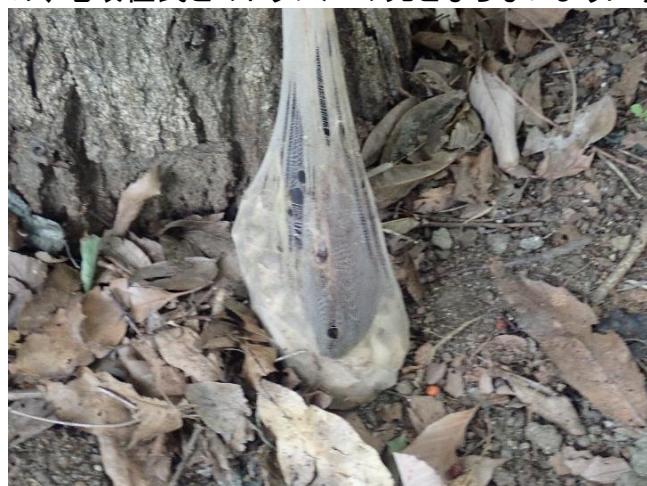


ひみつ採集道具「掻き出し棒」使用体験の様子です。受付で配られたものを持って前に集まり、順番に体験していきました。やったことのない体験にワクワクのようです☆

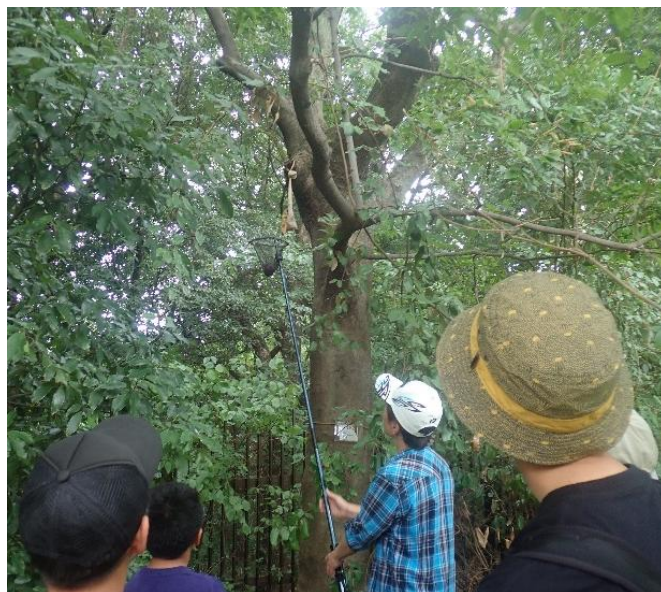


さて、早速屋外に出るの体験です！岡本を先頭に自然体験観察園内の管理された雑木林を歩き進めます。午前中同様、クワガタの捕れる木について学んだり、果実トラップについて説明を聞いたりしながら、岡本が普段から使用している全長 8m もの捕虫網を持つ体験をします！

午前中の時とは違う果実トラップを見て回りますが、下の方に付けたトラップにはついていないようです。午後の参加者には、実際にトラップを回収することも実演でお話しました。実際のフィールドでは放置される方がいるため、地域住民とのトラブルの元とならないようにすることが大切です。



次に確認した樹上の果実トラップには、ストッキングに開いた穴からパイナップルやバナナの皮に潜り込む、たくさんの昆虫の姿が！すると早速、岡本が網を構えてトラップを下から包み込み、トラップを揺らして昆虫を網の中へ落とし込みます！



中に入っていたのは、なんと大量のシロテンハナムグリ！ 20匹ほどはいたと思います。次々と網の上に這い出してきては翅を広げ、飛び立っていきます。今回はカブトムシこそ採れませんでした。果実トラップは、空気の通り道となるような、適した場所に設置することで、これほど多くの昆虫が集まることを、実際に目で見て体験してもらうことができました。



午後の参加者の皆さんにも順番に並んでもらい、捕虫網の使用体験をしてもらいました。岡本のフィールドでの採集は主に夜間のため、地上10mほどの高さに止まっているカブトムシを、左手でライトを当てながら右手の網で採集していることなどもお話ししました。



左の写真は、野外体験を終え、施設へ戻る途中の様子です。ここ自然体験観察園は、大阪市内にありながら、里山の原風景が広がる素晴らしい場所であると、受講生に伝わったと思います。

交流スペースに戻ってきて、再び講演の続きを行いました。そして、5つのミッション全てを挑戦されたということで認定証を皆さんに順にお渡しして全員で記念撮影☆ このあと、「岡本さんは7年後まだ虫捕りされています？まだバイクも乗っておられるようなら、一緒にバイクで行きたいです！」という、小学生から驚きの発言も飛び出しました。7年後、楽しみにしていますね^^



午前中の講演後と違って片付けの時間に少し余裕があったこともあり、左の写真のように終わってから参加者の皆さんは前に出てきてカブトムシ・クワガタと時間の許す限り触れ合っていました。

■参加者の皆さんから嬉しい声をいただきました！

アンケートでは、岡本職員の説明が分かりやすかったとの声が多く、カブトムシやクワガタの生態、採集方法、採集できる樹木などについて、これまで知らなかったことを学べたという感想が見られました。

また、実際に果実トラップを確認したり、林内で昆虫を観察したり、捕虫網に直接触れたりする屋外での体験についても、印象に残った参加者が多かったようです。ヘラクレスオオカブトに実際に触れられたことや、飼育ケースのプレゼントを喜ぶ声もありました。

全体として、講義による学習だけでなく、実物の昆虫や採集道具に触れながら学ぶことで、より楽しみながら昆虫について理解を深めてもらうことができたと感じました。また、岡本職員の自然に対する愛情が伝わったという嬉しい感想もいただきました。

自由研究、がんばって提出してくださいね☆